

令和 6 年度徳島県立近代美術館協議会会議録

1 日時 令和 6 年 1 2 月 4 日 (水) 10:00~12:00

2 場所 徳島県立近代美術館講座室

3 出席者 [委員] 10 名中 6 名出席

4 会議次第

- ① 開会
- ② 館長挨拶
- ③ 委員紹介・職員紹介
- ④ 議事
 - (1) 令和 5 年度事業実施状況について
 - (2) 令和 6 年度組織・予算及び事業概要について
 - (3) 徳島県立近代美術館 運営計画に係る「中期計画・中期目標」について
 - (4) その他
 - 〈報告事項〉
 - ・ 35 周年記念事業について
 - ・ 近代美術館が所蔵する作品の真贋について
- ⑤ 閉会

5 会議概要

- ① 令和 5 年度事業実施状況並びに令和 6 年度組織・予算及び事業概要について
事務局から説明及び質疑応答

委 員	運営面で若い職員の育成や経験のある学芸員とチームとしての取り組みの様子などをお聞かせください。若い世代のこれからの未来を見つめるそういうミュージアムとして確立していただきたい。 SNS の発信は、例えば自治体と連携している信頼性のある方を発掘して、多国籍の方にも多く関心を持っていただける、まさにユニバーサルミュージアムとして何かしらスタートしていただけたらと思う。
事務局	次年度は 35 周年で、これまでのコレクションと学芸員との関わりの中で、新しい人の目線で発信していく、本当にバトンタッチ企画になるものを若手の中から挙げてくれた。館全体で、切磋琢磨してやっている。 Instagram もいろいろ宣伝し、現地では実物の作品を見るという、現地でのサービスも、これまでに捕らわれないで出していかなきゃいけない。
事務局	展示会のほとんどを若い学芸員が担当し、そこで経験を積んでいる。運営サイドとしても、新しい取り組みをどんどん応援できるような形で経験を積んでもらえたらなと思っているところ。 SNS の発信は、美術館では著作権の問題がある中どうするのかという課題であるが、今年度の特別展では撮影 OK で、所蔵作品展については一部に限るが、撮影できる分は SNS にも、皆さんに発信してもらい、美術館でもそういうことができることが広がっていったらと思っている。
委 員	学芸員が 2、3 年経つと、経験を積まれて地元や関連のあるところへ帰ってしまう。こちらではどうでしょうか。
事務局	県人の U ターンとしてこちらに戻ってきてくれた学芸員もいる。全国規模で学芸員の採用活動をしているので、その時に最も優秀な職員をとということで採用できていると思っている。もちろん、学芸員生活の中で、キャリアアップは考えられることで、徳島でいたことを誇りに思ってもらえるよう、また、採用の中で選ばれるような美術館であるよう頑張りたい。
委 員	近代美術館のワークシートは楽しくて明るくて、手に取りやすい、とても素敵だなと思っているが、どのように作っているのか、どこに気をつけて作っているのか、また作った後、実際に鑑賞活動をどのようにやられているのか、お聞きしたい。
事務局	20 年くらいの学校教育の経験や鑑賞クラブなどの活動から、経験のない人が頭ごなしに否定されることや、人の話を聞いてからでないと美術鑑賞に入っていけないと思わないようにするため、自分もできる、私の答えでいいと自信を持てるところが重要。
委 員	令和 5 年度事業の実施状況で、さまざまな展覧会、教育普及の活動、学校の団体の受け入れ、例年高い水準で事業を実施されており、しっかりと館活動をしている。 一方で、データを見る限りでは、例年と大きな変化が見られないように感じる。その点は、

	美術館の利用者のデータを踏まえて、新たな取り組みを導入することも必要ではないか。 また、来館者の年齢層や属性に変化が見られるのかを分析して、その結果を元にして改善策を検討していくことが必要だと思う。 令和6年度の組織・予算事業の概要で、「てみるの時間」、「窓ガラスプロジェクト」など体験の要素を積極的に取り入れている姿勢は、これからの新たな可能性を広げることを特に感じている。 また、事業の予算の配分について、体験事業や連携事業に重点を置くことで、地域とのつながりを評価できるかと思っている。こうした地域の方や観光客の方々に向けた事業展開が、近代美術館さんの発展に繋がると期待している。
委員 事務局	客層の変化という意味では、訪日外国人ツアー客の受け入れなどは多くなっていますか。 クルーズ船のお客様の受け入れもあるが、例えばそういう方向けに、特別にツアーを用意することは増えていないのが実情。 来館の属性に合わせて、地域に影響力のあるような活動をとすることは、委員の言うとおりの。 例えば、アートイベントサポーターの方々というのは、活動に興味を持って、まったく縁の無いところからいろんな人が集まっている。そういう可能性は感じるが、その反面どこかと連携するところは息が続いていないので、課題として取り組みたい。
委員	美術館って敷居が高いイメージを持ってしまう方が多いので、今年度は切り口をやわらかくしたテーマ設定をしていて、とても入りやすくなっている。 Instagramも自分もやってみたいなって思えるような発信があれば、とてもよくなるのかなと思う。せっかくの休日に、何か勉強しに行くみたいな気持ちじゃなくて、ほぐすようなアート体験っていうのがあれば、普段の生活では感じられないような気持ちになれるような、ひとときになるのではないかな。 小学校の出前授業で、鑑賞シートを使わせてもらっているが、子どもたちって、すごい絵を描く人って、外国の人とか、県外の人みたいなイメージがあるので、「徳島でこういう絵があるんだよ」、「近代美術館に行ったら本物が見えるよ」となると、徳島というところに誇りを持てるので、そういうところをどんどん発信してもらえたらありがたい。
委員 事務局	言葉での表現が難しい子どもたちが、その中でアート活動とか、作品制作をして、表現の一つとして、アートが必要であり、子どもたちを支えているなという感覚がある。 作る活動というのは、見る活動とちょっと距離があるような感じがする。ユニバーサル関連の事業をする時は必ず書き物をする場所を作る。それは別に感想文を書くだけじゃなくて、そんなことを描いていいという場所があると、お絵かきをしている。言葉が難しいとか、塗るとかは好きだけど、展示室で何かしら表現活動は慣れ親しんでしまえば、非日常で面白い遊び場になる。敷居が高そうな美術館でもできそうなことを何か思いつくことがあったら教えていただきたい。
委員	何か自由にしてもいいものを真ん中に置いて、作品を見て作りたい子は作るとか。サポートというか促しは必要かもしれないが、子どもたちが気づいて何か表現するっていう。見ると作るって何か違うみたいだが、そこはやっぱり見て刺激を受けて、それを表現したいっていう子も多い。

② 徳島県立近代美術館 運営計画に係る「中期計画・中期目標」について
事務局から説明及び質疑応答

委員	中期的な次の5年を控えた最終年度で、来館者数を増やすということで、現状の分析はしなければならぬことじゃないかなと思う。例えば、滞在時間の分析などができたらと思う。 博物館で恐竜展をしていた時にも、集客力がある時に、美術館も見ていこうという企画をマッチングさせているのか、そのあたりの意識付けがされていたのかどうか。 ある程度把握できたら、こんな過ごし方が提案できますよ、という提案をSNSで発信して、いろんなターゲットの方が来てくれるのではないかな。 次の5年期間に向けて、普遍的なのは2030年度までの開発目標がSDGsであるし、特に気候変動などをテーマにした、例えば美術展があったら、そういうのをぜひ見てみて、自分事にしてみたい。そういうテーマを選ぶ際に、未来というところ、次の5年ばかりじゃない、災害も戦争も起こっているし、著しく変わっていく。人類の英知を集めて、そんな未来が見られるような何か方向性があれば良い。
事務局	5年間の重点取り組み事項について、どういうところに取り組むかで、この5年間は地域連携と利用者サービスに重視をおいている。 目標値の設定だが、数だけでは計れないことがたくさんあって、それをどのように目標値として、掲げていくかが難しい。 例えば、さっきの滞在時間があると思うが、数値目標にしにくい成果を実績していくためにどのような立て方があるだろうか。

委 員	数値目標だけではなく、地域連携プロジェクトの参加者の満足度、質的なところに焦点をおいた評価軸というのが1つの案かなと思っている。アンケート調査、参加者の声を定量化することで、地域文化の活性化や達成度を多面的に把握できる。
-----	--

③ 報告事項
事務局から説明及び質疑応答

委 員	所蔵作品の真贋問題について、美術館の信頼性に直結する非常に重要な課題だ。近代美術館と高知県立美術館が迅速に調査を進め、展示の中止などの対応が進められ、すごく責任感のあることだ。 一方で、贋作師が作品を自分が制作したと言っていること踏まえると、3つのことが提案できと思う。1つ目は、可能であれば、テーマを教育の機会として活用すること。あとは、地域との連携を更に強化することができる。最後に、海外の専門家、美術館に掲示して、科学的に真贋問題を分析することで、新たなネットワークを築いて、近代美術館の信頼性と国際性を高めることができるのではないかな。 この問題というのは確かに大きな課題ではあるが、この状況を未来のチャンスとして捉えて積極的に取り組むことで、近代美術館が更に成長を遂げる契機になるのではないかな。
委 員	社会的にどんな意味があるのか、展示をしている意図、目的が見えるとすごく面白い。真贋の作品を見比べても面白い、社会的に美術館って意味があると思うので、そこを発信していくというのも1つの手。
委 員	教育的に提供する意味で、その作品をどういう経緯で購入されるとか、どう真贋を判断していくのか、専門家の判断とか、科学的な調査がどういうものなのかを知りたいなという知識欲もある。勉強になる。
委 員	SNS 上では色々な反応があったかと思う。知る機会があったら「じゃあ、自分も応援したいな」って気持ちに繋がると思うので、県民に向けて発信していただきたいと思う。どのような声があるのか知った上で、発信してほしいと思う。
委 員	あの自転車の絵自体は元の絵があって、あの自転車の絵があるのか、それとも、作風をまねてあの人が自転車の絵を描いたのか。
事務局	真似ている方。
委 員	一県民からしたら、真摯に取り組んでいると思っている。プラスに変えていったらいいじゃないか。美術館の学芸員さんの仕事っていうことに対して、発信してくださると、とてもありがたい。 近代美術館は所蔵しているものでないと展示ができないとか、それとも、絵本の原画展とかを持ってきたりできるのか。
事務局	可能ですし、過去にいろいろとやってきている。絵本の原画展もアニメも紹介している。例えば、今展示しているエミール・ガレ展も所蔵品とはまったく関係ありませんし、いろいろできる。
委 員	やっぱり、間口がこう入りやすいっていうのは、「アート」っていう感じももちろん大事ですけれども、親しみがある漫画とかアニメとか、発信力のあるところとコラボしたら入場者数が増えるんじゃないかなと思うので、ぜひお願いします。
委 員	ちょっと問題になっている話題、LED 化。美術館ではどういう形になっているのか。
事務局	全体の長寿命化という中で、やれるところからやっていくところ。どんな付け替えができるだけコンパクトな予算でやっていけるのか、実際に業者に来てもらい調査をしているところ。
委 員	燻蒸のガスについて、こちらに変換が迫られていますが、こちらはどうでしょうか。
事務局	文化の森では博物館の方が定期的に行っている。現状、廃止されるエキヒューム S を使用しているが、来年度と再来年度ではエキヒュームに変わる薬剤を何かしら使っていくと伺っている。紙資料に当たっては二酸化炭素などを使い、カビに関してはどうしようもないので手作業でカビ払いをしていくと聞いている。美術館も同様の対応で考えている。